

吉野復興大臣茨城県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成29年6月28日(水)1400～1410 於)茨城県庁)

1. 発言要旨

先程、橋本茨城県知事と意見交換をさせていただきました。

また、午前中には北茨城市を訪問いたしました。水産関連施設、市場、製氷施設、そして放射能の検査の施設等々を見せていただきました。また、津波の避難道路、そして避難タワーもらせていただきました。

この後、鹿行地域を訪れて、液状化対策事業を視察する予定でございます。

知事とは、3・11のあの日に、震度6強が30分後にもう一回あった。6強の地震を2回続けて、同時に受けると被害は甚大だという、そういうお話を伺いました。

私は福島県いわき市出身なんですけれども、3・11の地震と、4月11日にそれよりも大きな地震、私はいわき市の南部地域なものですから、せっかく片付いたと思って、水道もつながったと思って喜んでいる時にもう一回全部やられてしまったということで、そんなお話もしたところです。

あと、知事の方から、原発災害での避難の問題、九十何万人という方々が30キロ圏内に住んでおられるんで、その辺の避難がなかなか大変だというお話も伺ったところです。

要望書も頂きました。細かい説明はございませんでしたが、中身は財源の確保、これはその場で答える時間がありませんでしたけれども、復興・創生期間で6兆5,000億というきちんとした予算を確保してあります。その財源も全部6兆5,000億については手当て済みでございますので、この6兆5,000億を有効に使っていただきたい。このように回答をしたかったですけれども、回答はしませんでした。

また、復興五輪、これもサッカーについて、IOCが認めていただければ、決まるやにございます。あと北茨城からも要望がございました。復興五輪なんだから、聖火リレー、これを被災地でやってくれというようなお話もございましたので、一生懸命そのところには取り組んでいきたいと思っております。

また、リスクコミュニケーション、そして全国で第2番目の農業生産額を誇っている茨城県にとって風評被害が大変深刻だというお話も伺いました。

最後には、東北の被災3県と同じく茨城県も被災県なんだということを忘れないでほしいという、強い言葉を知事から頂きました。

実は私が、もう6年前、東北3県ではないんだ、茨城県も大きな

津波を、そして地震の被害を受けているんだということをテレビ入りの予算委員会でお話をしたことがございますので、その旨も、知事は分かっておりますけれども、私の方から申し述べた次第です。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 午前中、大津漁港、北茨城を見て、去年から運用が本格化している新しい卸売市場だったり、放射能の検査施設、またその後、住民との意見交換会なんかもありましたけれども、そこら辺を通して、北茨城の復興に対してどんな印象を持ったかということと、意見交換会でどんなことを住民の方とお話しされたかということをお教えてください。

(答) 福島県はまだ魚市場を運用しておりませんが、北茨城は本当にH A C C P 対応に準ずる市場施設ということで、常に殺菌した水を流している、そして施設の中に入る時にもきちんと長靴を洗ってからではないと入れないというところで、すばらしい市場施設を持っているなと思いました。

ただ、私も意見交換会で言ったんですけれども、そういうハード面は立派にできましたけれども、今、北茨城の大津港は生食での魚の販売だけなんですよね。これをもっと加工して、6次化を図って、全世界に売出しをかけるようなところもこれから、復興事業としてもそこに力を入れているんだよというようなことも申し上げた次第です。

意見交換の中では、実は私の同級生の妹さんが嫁いだり、向こうからうちの方にお嫁に来たり、私のいわき市南部地区と北茨城市はもう本当に昔から交流がございますので、地元に戻った中での意見交換だったんだなと改めて思った次第です。

(問) 午後鹿嶋、潮来と続きますけれども、ひとまずここまで見て、実際に御自分、自身の足で回ったということに関して、今、どのような感想をお持ちですか。

(答) ハード面は確かに進んでおると思います。ただ、知事から聞くと、各役場の庁舎がこれからだということで、ハード面は最後は役場の庁舎の改修という形になるかと思っています。もうこれは全体的にもう6年たちましたので、ハード面は順調に進んでいるかと思っています。問題はソフト面でありまして、そういう意味の販路拡大、また、生食から6次化へという水産業については、風評被害対策とか、あとは心のケア、心の復興があります。実は私、津波の映像をもう今は見たくないんです。前は何でもなかったんですけど、今になって津波の映像はチャンネルを切り替えるとい

うぐらいです。だから、今こそ心の復興、心のケアというものが大事なのかなと、私自身の体験を通じて、そう思いますので、これからの復興行政というのは、ソフト面のところに大きく舵を切っていきたい、このように考えています。

(問) 知事とのお話の中で、原発災害の避難が大変だというお話が出たということですが、知事の方から何か国に対して避難計画を作るに当たっての要望だとか、支援してほしいだとか、そのようなお話まで出たのでしょうか。

(答) 知事からの要請はございませんでした。ただ、私、大臣になる前は原子力規制 P T の座長をしておりましたので、各原発地域を全部、途中で大臣になってしまったから行けなかったんですが、必ずオンサイトの事業所と、あと役場、いわゆる原子力災害での避難計画、このところをきちんとヒアリングをしてきております。本当に多くの人口を抱える地域では、なかなか大変な問題だなという認識はしているところです。

(問) 先程ソフト面での復興という話が大臣からあったんですが、何か例えば具体策など、今、腹案などであれば教えていただけますか。

(答) ですから、まずは心のケア、この辺のところを充実していきたいというのが一つです。あとは岩手県、宮城県、いわゆる三陸海岸での水産物の売れ行き、これが水産加工場はグループ補助金等を利用して、立派にできたんです。でも、直している間に、東京のスーパーの棚が他に移ったというか、当然、スーパーですから、空けておくわけにはいきません。ですから、その棚をいかに取り戻すか、それはなかなか大変なことで、ここにやっぱり復興行政としては力を入れて、新商品を開発していくのか、もっと設備投資をして、コストダウンしていくのか、いろいろ道はあろうかと思いますが、そちらのいわゆるソフト面の方に重点を置きたいと思います。

(問) 心のケアという部分ではいかがでしょうか。

(答) これは岩手、宮城、福島なんですけれども、心のケアセンターというセンターがございますので、ここのところの充実をこれから図っていきたい、このように思っています。基本的には厚労省の分野なんですけれども、復興庁としても、きちんと連携をとりながら、充実を図っていきたい、このように考えています。

(問) 先程、知事の方から風評被害が非常に深刻だと言われたというお話もありまして、最初の冒頭でも輸出関係の話も出ていたかと思うんですが、それに対して知事との会談の中で、お話しになったことというのはどのようなこととお話しになったのでしょうか。

(答) 風評被害対策については、今年度の予算で４７億円の大きな予算をとってございます。そして、流通段階、販売段階、生産段階、全ての段階できちんと調査をする事業が今年度から始まりました。

「震災前は被災地のものは置いてあったのに、何で今置いていないんだい」というヒアリングをして、きちんと調査をして、「置いてください」という命令はできませんけれども、「なるべく置いてくださいね」というお願いぐらいまではできる、そういう、本当に４７億円という大きなお金を使って、今、調査事業、そして、その調査した結果を踏まえて、どういう対策があるかというところの事業を、ある意味では本気を出して、今年度から取り組むということです。

(問) 具体的にヒアリングの対象としては、例えば一般事業所であるとか、スーパーとか、そういったところを対象に考えていらっしゃるのでしょうか。

(答) そう思います。

(以 上)